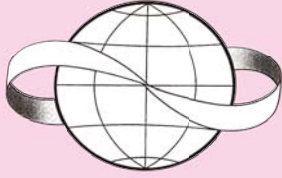


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



商標登録第 4882482 号

第74号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

廃プラの海洋汚染は我々の生活と密接に関わる問題だ

廃プラの海洋汚染は我々の生活と密接に関わる問題だ。昨今、プラスチックの海洋汚染が問題となり、特にストローがやりに玉に挙げられているのは皆様ご承知のことと思う。既に世界の海に存在しているといわれるプラスチックごみは、合計で一億五千万トと言われている。更に毎年八百万トが、新たに流入していると推定される。一度放出されたプラスチックは容易には自然分解されず、多くが数百年以上もの間、残り続ける。海の中で紫外線などにより分解され、5mm以下になったものをマイクロプラスチックと言っているが、これが食物連鎖により生物に蓄積され、生態系を壊す原因となっている。特に日本近海のマイクロプラスチックは、世界に比べて二七倍も多いとも言われており、魚を食べることの多い我々にとってはまさに死活問題である。

また、プラスチックの年間生産量は、過去五〇年で二〇倍に増大したが、これまでにリサイクルされたのは、生産量全体の僅か九%に過ぎない。そして、生産量は今後も増え続けると予想されており、二〇五〇年にプラスチック生産量は更に四倍となり、『海洋プラスチックごみの量が海にいる魚を上回る』という予測もある。こんなショッキングな予測や、プラごみを飲み込んだクジラが打ち上げられたニュースを見て、何とかしなければと感じる人は少なくないはず。ところが、特に日本海沿岸に漂着するプラごみをニュースで取り上げられたりすることが多いせいか、日本人としては被害者意識を持つている方も多いのではないだろうか？

被害者どころか、日本は世界第三位のプラスチック生産国であり、国民一人当たりの容器包装プラスチックの排出量はアメリカに次いで世界第二位という世界有数の発生源であり、国際的にも責任を求められる立場にいる。コンビニの普及もあり、国内で年間に流通するレジ袋の枚数は、四〇〇億枚とも言われており、一人当たり一日約一枚のペースで消費されている。それでも日本は廃プラスチックのリサイクル率が高いから大丈夫と思っている方もいるかもしれない。実際二〇一六年には九〇〇万トもの排出量のうち、八四%をリサイクルしている。但し、うち五七%をサーマルリサイクルに頼っている。サーマルリサイクルは和製英語であり、CO2排出量が増加するため、パリ協定ではリサイクルとして認められていない。また、マテリアルリサイクルされたおよそ二三%のうち、一五〇万トは海外に輸出され、その約半分は中国向けだった。その中国では、二〇一七年から廃プラスチックの輸入規制をしており、その波は各国にも拡大、行き場を無くした廃プラスチックの処理が大問題となっている。政府は来年夏までに輸出を禁止する方針を発表したが、具体策はなく今後リサイクル率が維持出来るかどうかは不透明だ。

この原稿を校正中に某全国紙の社説が同じような切り口で廃プラ問題を取り上げた。この新聞社も雨の日はビニールをかけた新聞を配達し、未だにビニール製の新聞整理袋を配布している販売店もある。ビニール製の袋は紙袋より圧倒的に安い、選別作業も手間が掛かる上、廃プラの処分代も当然回収業者の負担になる。排出される市民の皆様からも声をあげて頂くこと、また古紙を出される際に皆様もレジ袋などのビニール袋を使用しないようにして頂くこと、そもそもレジ袋をもらわないようにするなどのご協力を是非お願いしたい。一人一人の小さな取り組みの積み重ねでしかこの大きな環境問題は解決できない。(TKO)

リサイクル適性 (A)

平成の時代が終わり、五月一日より新しい令和の時代がスタートしました。大量排出、大量リサイクルからの余剰化で、古紙も金属も苦しい市況でスタートした平成

直言インタビュー 「令和時代の リサイクルを考える」



日本再生資源事業協同組合連合会
関東資源回収組合連合会

第10代青年部長 大河内 敦史
第20代青年部長 竹井 望

聞き手 東多摩再資協 広報委員長 紺野 琢生（日資連青年部 顧問）

でしたが、中盤からは資源物の国際商品化によってリーマンショックによる一時的な大暴落はあったものの好調に推移してまいりました。ですが、昨今の中国情勢、バゼル法の改正など業界を取り巻く状況は変化しており、これから先どのような舵を切っていくべきなのか、業界の若手リーダーである日資連・関資連青年部の現部長の皆様にお集まり頂き、お話を聞いてみたいと思います。

◎日資連部長の大河内です。昭和三七年に創業した細田金属商店の二代目として、この業界に関わって一四年目になります。会社は鉄スクラップを取り扱っている他、さいたま市の行政委託回収も行っています。今年一〇周年を迎える埼玉協青年部創立の際に入部、五年前に部長を務めさせて頂いた時から日・関資連青年部にも関わらせて頂きました。

◎関資連青年部長の竹井です。昭和二〇年創業の竹井博商店の三代目としてこの道一九年になります。非鉄スクラップを主に扱っています。今は神奈川の青年部長と支部長も兼任しています。歴代の岡崎さんが関資連部長だった時に初めて日・関資連の会合に出させて頂きました。

―お二人には、私の次の日資連青年部長、三代後の関資連青年部長をお引き受け頂きありがとうございます。丁度一年経ちますが、如何でしたか？また、この先はどんなことに取り組みたいですか？

◎前任の紺野さんが日資連青年部活動のベースを作ってくれたので、それを踏襲しつつあつという間の一年間でした。ヘルニアであまり動けなかった部分もありましたので、今年に入って岐阜、奈良と総会にお邪魔してきましたが、更に各地に訪問し、青年部活動を全国に拡大していきたいです。

◎昨年は、関東各県を訪問させて頂いたり、七月の倉敷でのボランティア活動、関資連青年部大会群馬大会と充実した一年でした。今年も茨城での大会開催が決まっております。益々関東の結束を高められるよう頑張ります。

―冒頭述べさせて頂いたように、資源業界は混とんとした状態が続いております。各地の青年部員の方々との情報交換や、仕事をしている上での問題点、課題はありますか？

◎やはり、相変わらずですが、古紙の持ち去りや金属類の盗難、組合員同士も含めて同業間での仕事の取り合い、あとはやはりドライ

バーを始めとして人手不足ですね。―取り合いというと、大手の進出による仕入競争とかでしょうか？

◎スクラップの場合、大手は少量の顧客には手を出さないとですね。2.5t以下の小型トラックも持っていないです。

◎ただ、大きな間屋さんやホームページなどで買取価格をオープンにしている、我々事業者と同じ価格で一般の方から仕入れをします。お客様から直接売りに行くからいいよと言われてしまうケースもあります。

―事業者は、回収コストも掛かるし、選別をしてまとまったロットで効率よく持ち込むのだから価格差は出て然るべきですけどね。

◎ネット社会、情報化社会ですから流通の形は変化していくのかもしれないですが、これまで長年地域のリサイクルシステムを支えてきて、今後も担っていくのは我々中小零細の再資源化事業者が不利になることに対し懸念しています。

―今日みたいな連休も皆仕事で出したしもあるとか差別化を図れる余地はありますか？

◎あとは、組合を使って、東資協でも標準売値（回収業者が問屋に売る値段）は発表しているのですが、回収の標準コ

ストも掛かるし、選別をしてまとまったロットで効率よく持ち込むのだから価格差は出て然るべきですけどね。

◎ネット社会、情報化社会ですから流通の形は変化していくのかもしれないですが、これまで長年地域のリサイクルシステムを支えてきて、今後も担っていくのは我々中小零細の再資源化事業者が不利になることに対し懸念しています。

―今日みたいな連休も皆仕事で出したしもあるとか差別化を図れる余地はありますか？

◎あとは、組合を使って、東資協でも標準売値（回収業者が問屋に売る値段）は発表しているのですが、回収の標準コ

ストも掛かるし、選別をしてまとまったロットで効率よく持ち込むのだから価格差は出て然るべきですけどね。

◎ネット社会、情報化社会ですから流通の形は変化していくのかもしれないですが、これまで長年地域のリサイクルシステムを支えてきて、今後も担っていくのは我々中小零細の再資源化事業者が不利になることに対し懸念しています。



左から大河内日資連青年部長、竹井
関資連青年部長、紺野

スト（戸別収集、拠点収集、発生量の大小での差もつけて）、見積積算時の標準の人件費とかを取り決めて発表するのもいいよね。また、人員不足はどうしてますか？

④外国人労働者の受け入れが真っ先に頭に浮かびます。雑品の選別解体などの分野では活躍して頂けそうですが、ドライバーとなると免許証の問題もありますよね。人が足りなくて、自らハンドルを握って動き回っている社長さんも青年部には多いです。私の会社は現状充足できていますが、人件費が高騰しているのは否めません。

—雑品は手を出したいけどプラごみの方が問題ですからね・・・
人員の方は、東京のリサイクル女子会が出ていた話で、各社間でのドライバーのシェアなんか面白

いなど思いました。あとは回収と選別のオートメーション化を青年部で考えて下さいよ。

④熊本や広島の混合収集とライン選別の視察に行きましよう！

—業界団体や青年部活動での課題などがあれば教えてください。

④各地でいろいろな方とお話する機会を頂いて、まあどちらかというと会合が終わって懇親会だったりその後飲みにケーションをとっていると、皆悩んだり、色々考えて新しい取り組みをしていたり、本当に勉強になります。親会も青年部も人員が減っているのが悩みのところが多いようですが、こんなに情報と刺激をもらえる機会に参加する人が減っているのは本当にもったいないと思います。組合も仕事ももらえないではなく、情報交換やいざという時に助けてもらえる可能性もあります。

—そうそう。特に、日・関資連青年部は活動体というよりは連絡調整機関の役割が大きいため、各県の青年部活動が活発になる様に支援をすること、色々な学びや出会の機会を一人でも多くの部員に拡げていくことです。私が関資連青年部大会を立ち上げた思いもまさにそこです。設営県には一定の

負荷をかけることになるけど、地元の青年部員にも協力してもらわないといけない、日・関資連青年部として各県青年部も協力する、そこに出会い、学びの機会が生まれるわけです。あ、ちよつとしゃべりすぎましたが、お二人には、全国の青年部員への機会の提供者として頑張ってください！

④了解しました。今年の茨城大会は是非紺野さんも参加して下さい。もちろんです。次に、ISOでも課題抽出からの機会と取り組みという流れで目標構築をしますが、ピンチはチャンスで、先ほどの課題は逆に機会につながるのではないかと思います。お二人の中の課題解決に向けたビジョンがあれば教えてください。

④一番困っていることで何とかしたいと言え、先ほど話に出たプラごみのように、処理に困っているもの、雑品のように手を掛ければ売れるようになるものを青年部でみんなで出資して、事業を立ち上げて、再生処理センターを作りたいですね。出口を作ったあげれば我々回収業者も取り扱うことが出来るわけです。そのために、フリーピンやベトナム、カンボジアあたりに海外視察研修にも行ってみたいですね。

—実に頼もしい。私も同行しますよ。最後に、抽象的でお話しづらくかもしれませんが、これから先、『令和時代のリサイクル』について、次世代につなげていくためにはどうするか、一言ずつお話しします。

④今後は、欧州型サーキュラーエコノミーが進展し、資源メジャーと言われる大手の進出が予想されます。平成の終わりに様々な課題が見えましたが、資源は絶対にごみ扱いさせない、資源は資源として回収してリサイクルする、そのために令和の時代もやはりリサイクルは地産地消で地域の回収業者が活躍出来るよう訴えていきます。

④自治体そして国はもっと事業系にも目を向けて頂きたいと思いません。産業廃棄物の処理価格は高騰し、事業系一廃の不適切処理が問題になるケースもあります。出口は待たなしの状況ですので、専ら物を始めリサイクルを推進するべく廃掃法の改正を進め、製造段階でのリサイクルしやすい素材の使用など国を挙げて取り組む必要があります。令和時代のリサイクルは美しい（令）輪（和）になる様に頑張ります。

大河内部長、竹井部長、総会セッションの大変お忙しい中お時間を頂き、ありがとうございました。

東リ協会 リサイクルフォーラム 陽春のついでを開催



東京都古澤課長による講演

平成三十一年二月一二日(火)、公益社団法人東京都リサイクル事業協会リサイクルフォーラム プラスチック対策講演会及び集団回収・資源リサイクル団体表彰式がホテルメトロポリタンエドモントで行われた。基調講演では、「東京都のプラスチックの持続可能な利用施策動向&『チームもつたいない』について」ということで、東京都環境局資源循環推進部計画課リサイクル専門課長の古澤康夫氏が、世界的に問題化しているプラスチック対策を取り上げ、1. 使い捨てプラスチックの削減、2. 再生プラスチック及びバイオマス

の利用促進、3. 環境的利用の推進及び高度化、4. 散乱防止・清掃活動を通じた海ごみ発生抑制、5. 国際的な連携、6. 二〇二〇年オリムピック東京大会を契機とした取り組みを行う上で、具体的な施策の構築が必要であると講演された。

講演会終了後、日頃活発に活動を行っている集団回収や資源リサイクル団体の表彰式となり、本年は集団回収団体として立川市錦町親和会が、資源リサイクル団体としてごみ・環境ビジョン21がそれぞれ表彰された。

集団回収団体の錦町親和会は、三五年の回収実績があり、月一回一時集積所を設け、回収当日の朝、広報車にて出し忘れ防止の周知を行い、町会以外にも参加を呼び掛けるなど工夫した集団回収を行っているそうだ。

資源リサイクル団体ごみ・環境ビジョン21は、平成一〇年に発足し、資源循環型社会形成を目指し、持続可能なライフスタイルの定着に向け、情報誌の発行、市民ごみ大学セミナーの開催、生ごみリサイクル交流集会、ごみ施設などの見学会、講師派遣等の活動が評価されていた表彰となった。

こうした集団回収団体や資源リ



栗原会長と表彰を受けた2団体の代表者

サイクル団体と共に、我々資源業界人も研鑽を積みながら歩んでいきたいと思った。(小畑)

市民ごみ大学セミナー

『ごみ減量！
多摩地域はこうして
トップランナーになった！』

去る二月一七日(土)、国分寺市労働会館で開催された表記のセミナーに福田支部長と共に参加してまいりました。このセミナーは、市民団体であるごみ・環境ビジョン21が毎年開催しているもので、当日は多くの市民、行政関係者の方が参加されました。

三名の講師の一人目は、東洋大学経済学部教授の山谷修作先生。山谷教授は、小平市及び西東京市



山谷教授による講演

の廃棄物減量等推進審議会の会長も務められており、私たちもなじみ深い先生です。最終処分場の問題を抱えていた多摩地域で家庭ごみの有料化、戸別収集を推進してきた経緯とごみの減量の成果について、また有料袋の価格とごみ量の変化など詳細に分析してご説明頂きました。また、これからの展望として高齢化社会に対応したごみ収集サービスや西東京市で導入されているGPS端末による収集の効率化や武蔵野市のクリーンセンターで開催された『ごみピットバー』の紹介がありました。市街地の中心にある焼却場ならではの試みですが、ごみピットを見ながらの一杯には、市民だけではなく多くの皆様が来場されたようです。またチャンスがあれば、私も

一度参加してみたいと思いました。二人目は日野市ごみ減量推進市民会議の小野寺勲さん。日野市は、一九九六年には多摩地域のごみのリサイクル率ワーストワンと報道され、この汚名を晴らすべくダストボックスの廃止や戸別収集化、有料化にいち早く取り組み、ついには全国と同規模の自治体の市民一人当たりのごみ総排出量全国三位（一位は後ほど出てこられる加藤さんの住む小金井市）になったそうです。市のごみ改革の後も、小野寺さんたち市民会議の主導により、マイバッグ運動やレジ袋配布中止への働きかけ、容器包装お返し大作戦に取り組んでこられたそうです。また、ひの・まちの生ごみを考える会では段ボールコンポストの販売や普及活動などに取り組みました。まさに、日野市と市民が協働してごみの減量に取り組んできたことが分かりました。最後は全国一位の小金井市民の加藤了教さん。小金井市はご存知の通り二枚橋焼却場の建替え計画の頓挫により平成一八年にごみ非常事態宣言を出し、二枚橋焼却場の停止後は、各地の一部事務組合に広域支援をお願いするなど、ごみ問題では市も市民も関心が高く、協働して様々な取り組みをさ

れてきたそうです。事業系ごみの手数料も二〇円から五五円に値上げすることで、搬入量を九分の一に減らしたそうで、市内の企業もごみ減量に相当の協力をしたとのことでした。

休憩を挟み、三名の講師の皆様が前に並んで質疑応答の時間となりました。大人しくしていたのですが、最後に江川さんからご指名頂き、東多摩再資協での取り組みや回収業者の立場からのお話をさせて頂きました。

我々の地域でも、小平市が四月一日から家庭ごみの有料化、戸別収集化をスタートさせ、ますます多摩地域全体のごみ減量が加速していきます。本日のお話を参考にしていきます。本日の話を参考にしてまいります。(TKO)

**第二六回TAMAとことん
討論会に参加しました**

去る三月一六日(土)、多摩市のアウラホールで開催されたTAMAとことん討論会に参加しました。今回は、『私が出した「資源」はどこへ』をテーマに、まずは江尻事務局長から事前に多摩地域の各市に送ったアンケート調査報告から始まりました。

リレー講演では、(公社)東京都リサイクル事業協会の理事の方々

が専門分野ごとに講演をしました。

まず、『古紙』は、東京都製紙原料協同組合常務理事上田晴健氏から昨今の海外情勢から持ち去り問題について、続いて、『びん リユース』は、東京包装容器リサイクル協同組合理事長戸部昇氏から、近年問題になっている廃プラスチックの海洋汚染問題や生きびんのリユースの見直しについて、『びん リサイクル』は、東京ガラス原料問屋協同組合代表理事菅澤太二氏から、カレットの様々な用途や、その他カレットが増えている現状について、『金属・小型家電』は港区リサイクル事業協同組合理事長永田博孝氏からアルミ缶・スチール缶から小型家電のリサイクルの現状、東京オリンピックのメダルプロジェクトについて、『古繊維・古着』は関東古繊維協会のナカノ(株)マネージャーの内田長氏から数年前の古繊維バブルと崩壊、古繊維市場の現状と分別のお願いについて、最後に『プラスチック』は一般財団法人プラスチック循環利用協会総務広報部鈴木雅夫氏から、今一番問題となっている廃プラスチック処理の現状と今後の課題について、まさに休憩なしで各氏から報告がなされました。

この後、品目別分科会でのグル



リレー講演の様子

ープデイスカッション、ダイナックス都市環境研究所山本所長の進行による全体デイスカッションで閉会となりました。(吉浦)

トイレットペーパー
「フューメラン」
 (65m巻き・100個入り)
 1ケース3,240円(消費税・配達料込み)です。
 ※なお、配達には以下の地域に限定させていただきます。
 小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・東大和市
 ご注文は当組合までお願いします。
 TEL : 042-395-9788
 FAX : 042-395-9787

リサイクル掲示板

小平市リサイクルセンター25年間ありがとうございました



新しい小平市リサイクルセンターが4月1日より開所、稼働しました。私たち東多摩再資源化事業協同組合も日本管財環境サービス(株)とのJVという新たな形態で委託業務を開始致しました。新しいスタートの裏側で、3月29日(金)旧リサイクルセンターは、最後の運転を無事に終了しました。少し残業して、ペットボトルの処理を全て完了し、その場にいた作業員全員拍手を持って終了したそうです。実際には、翌30日(土)に古布の出荷と引っ越し作業を行ってほぼ仕事納めとなりました。新たなセンターでのスタートはもちろんですが、移行準備をしながら旧センターでの業務を滞りなく終わらせるという大きなミッションをなんとか無事に終えることが出来ました。戸別収集化、有料化の直前の駆け込みで、有料化にはならない資源物も通常の1.5~2倍、布団に至っては通常の3倍という搬入量という非常事態の中、事故やけがもなく何とか処理してくれた従業員の皆様に心から感謝と労いの言葉を送りたいと思います。本当にありがとうございました。

ここで、旧センターと旧センターでの作業に関わって頂いたすべての方々への感謝の気持ちを込めて、写真と共にセンターの思い出を振り返ってみたいと思います。

①平成5年10月 中島町の再資源化施設で委託業務を開始



業務開始日の朝礼の様子



屋根もない中での選別作業



②平成6年2月 小平市(旧)リサイクルセンターが開所、委託業務を開始



開所したばかりの旧センター。ペット棟やリプレがまだ出来ていない



選別ラインの様子

③平成11年4月 中島町の清掃事務所にてトレイ、有害物、紙パックの処理委託業務を開始

④平成12年6月 小平市リサイクルセンターにて廃プラスチックの選別処理委託開始

⑤理事責任者、現場責任者の交代

リサイクルセンター開所時は、理事責任者として故藤野昭吾氏(平成13年9月逝去)、萩原貞雄氏(開

所~平成25年5月)、土井益二郎氏(開所~平成26年3月)、田中彰氏(開所~平成31年3月)、その後水野彰氏(平成27年9月~平成31年3月)が務めた。現場責任者は、花島文雄氏(開所~平成19年6月)、佐藤利夫氏(平成19年7月~平成26年3月)、故西内幸雄氏(平成26年4月~平成30年2月)、長塚信雄氏(平成30年2月~平成31年3月)、新センター移行にあたって、加藤忍氏が東多摩再資協の責任者に就任した。



年度初めの朝礼にて。右列に責任者 在りし日の故藤野副理事長(左) 在りし日の故西内現場責任者(中央)

⑥安全講習会、共同受注検査、親睦旅行



楽しかったバス旅行



毎年恒例のボウリング大会



構内作業員安全講習会



旅行での集合写真



懐かしのソフトボール大会



共同受注検査の様子

⑦平成31年3月 小平市(旧)リサイクルセンター閉所

⑧平成31年4月 小平市(新)リサイクルセンターが開所。JVでの委託業務開始



新センター 南側正面入り口



新センター 北側搬入出車両入口



4月1日の朝礼での理事長挨拶

【平成三一年東資協
新年賀詞交歓会】

平成三一年二月二日（土）午後五時～七時、東京ガーデンパレス二階「天空」にて、東京都資源回収事業協同組合の新年賀詞交歓会が行われました。

松本貞行理事長の挨拶の後、東資協顧問の先生方を始め、行政、関係諸団体からの多くのご来賓の方々よりご挨拶を頂戴致しました。乾杯の後、懇親宴となり、理事や他の支部の組合員、ご来賓や賛助会員の方々と名刺交換させて頂き交流することが出来ました。また、懇親宴の途中には、青年部の方々が設営してくれた余興として大学生の三味線サークルによる演



新年会での松本理事長挨拶



早稲田大学三味線愛好会
『三津巴』の皆様

奏等もあり、午後七時にお開きとなり盛況のうちに散会となりました。
(栗原)

平成三一年度日資連研修会

去る三月八日（金）、ホテルラングウッドにて、日本再生資源事業協同組合連合会の研修会が開催された。業務委員会副委員長を務める当組紺野専務理事の司会進行により、日資連飯田会長の挨拶により開会し、三名の講師による講演会がスタートした。

一人目の講師は、経済産業省産業技術環境局資源循環経済課長の福地真美様で、『資源循環政策をめぐる最近の動きについて』というテーマでご講演頂いた。海洋プラスチックの問題から、サーキュラーエコノミーを始めとする海外

の動向、「循環経済ビジョン研究会」による循環経済ビジョンの骨子案、資源循環システム高度化促進事業についてのご説明があった。二人目の講師は、環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課長補佐の工藤俊祐様から、『廃棄物処理法・バーゼル法改正及び昨今の廃棄物の輸出入の状況について』というテーマでご講演頂いた。重金属等による世界における環境問題から、雑品スクラップ対策の内容、改正法の施行状況、プラスチック等廃棄物の輸出入の規制状況について説明された。

三人目の講師は、業界の仲間でもあります、東北六県再生資源商工組合連合会（宮城県再生資源商工組合）の株式会社サイコー会長斎藤孝三様で、『顧客感動と事業拡大』というテーマでお話頂いた。起業した時のエピソードから、会社を拡大していく過程、東日本大震災における同社の動きなど、創業者としての生の声をお話し頂いた。サイコーさんは、元々古紙回収から起業し、今では一般廃棄物の収集から廃棄物のコンサル業務など幅広く事業を展開されており、同業者として話が入り込みやすく、また大変刺激を受ける言葉が沢山あった。



当日は、謝辞を大河内日資連青年部長、濱田前東資協青年部長、福田前東資協青年部長が行うなど、業務委員会の方でも若手に聞いてもらいたいという設えをしたのだと思う。

これから先の資源業界は混とんとしており、先行き不透明などころがあるが、こういう難しい時代、苦しい時期こそチャレンジしたものが勝つのだと思う。若い人たちだけじゃなくて私もまだまだ頑張りたい。
(吉浦)

東資協でリサイクル
女子会を開催

去る三月六日（水）、代官山にて『第二回TOKYOリサイクル女



当日は、女子トークで大盛り上がりしました。

「子会」が開催されました。一昨年の年末に開催された第一回女子会は、業界紙でリサ女特集が組まれるなど、反響があり、二回目の開催となりました。

男性が多いこの業界の中で、普段は少数派のリサ女の方々が、前回より二名増えて九名参加して頂き、美味しい料理を食べながらざつとまでお話が出来て大変楽しかったです。業種は問屋さんも回収業者さんも色々ですが、普段されているお仕事が事務や営業、管理業務の方が多く、お話して頂くことができる部分が多いのもこの女子会のいいところです。

女子限定でお土産も用意して頂き、至れり尽くせり。次回以降は

もっと多くのリサ女の皆様に参加して欲しいなと思っています。経営や事務だけでなく、現場にも女子が増えるといいですね。

(吉浦亜)

第一七回東多摩再資協

青年部通常総会

去る四月一九日(金)、所沢「観」にて当組合青年部総会が開催されました。青年部長挨拶では、青年部活動への支援のお礼と、部員への感謝の言葉を述べさせて頂きました。

昨年の活動報告が行われ、今年の活動方針案では、青年部として少数精鋭ながらも活発に活動していくことと、広報委員会や業務委員会に参加協力しながら、新たな教育訓練、研修活動を行っていく決意を表明し、事業計画に込めさせて頂いていただきました。全ての議案が滞りなく承認可決されました。総会後は理事の皆様と懇親を深め、組合も新体制になっていく中で親会・青年部が一体となり令和の新时代を切り拓いていきたいと思います。大いに盛り上がる事が出来ました。私自身も頑張つてまいります。

(水野K)

川島商店創業者

故 川島正行氏(行年八六歳)を偲んで



平成三〇年一月二十九日、川島正行氏の訃報が届きました。同年七月奥様が突然逝去され、悲嘆にくれておられました。後を追って急ぎ旅立たれたのか、とても安らかなご尊顔を拝しつつ、お見送りさせて頂きました。

川島氏は、江戸川区亀戸で昭和七年誕生され、東京大空襲で所沢市に疎開し、県立所沢高校卒業と同時に、伯父さんの資源回収問屋・(株)長田屋で修業されたと聞いています。

昭和三二年独立し、現在の東村山市栄町に川島商店を開業され、この時、いとこの奥様と結婚されたようです。鉄・非鉄・古紙・びん類など幅広く得意先を得て、資源回収業の先達として活躍され、組合の礎を築いて頂きました。何も知らずにこの業界に飛び込んだ小生も、商いの一からそして資源回収業の営み方を教わり、公私共々ご厚情を賜りました。

また、東京都資源回収事業協同組合田無支部第八代支部長始め、東京都金属防犯協会北多摩支部長や当組合理事も長年勤めて頂きました。

今、大先輩の数々のご功績の上に、組合は新たな歩みを進めております。永年に亘つて業界のためにご尽力頂きましたことに感謝申し上げます。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌
顧問 紺野 武郎

東多摩再資協 感謝の会を開催

去る三月三〇日(土)、「掬水亭」にて、東多摩再資協感謝の会が開催された。ご来賓として小平市から、環境部長岡村秀哉様、資源循環課課長松尾英条様をお招きし、組合員と小平市リサイクルセンターの従業員が参加した。

当組合は、平成五年一〇月から小平市再資源化処理施設(中島町)、平成六年二月から小平市リサイクルセンターの委託業務を受託してきた。平成三一年四月より、新リサイクルセンターに移行、日本管財環境サービス(株)との共同企業体で委託業務を受託することとなった。これを機に退職される職員の方々、これからも小平センターの業務を守っていただく方々、また、長年組合理事を歴任されてこられ、このたび退任されることとなりました、萩原貞雄氏、田中彰氏に感謝の気持ちを伝える会として開催された。

現在では当たり前のように行われているごみ減量と再資源化だが、

小平センターが発足した二五年前は、多摩地域の廃棄物最終処分場問題、資源の枯渇といった問題に直面していた。小平市と東多摩再資協が力を合わせ、切磋琢磨し再資源化に努めてきた。

吉浦理事長より、自分が日本中飛び回り、自信をもって発言できていたのは、小平センターの皆さんが、地元のリサイクル事業を守ってくれているからだだったと語り、退任されることとなった、萩原氏からは、全国のリサイクルセンターを見学してきたが、たくさんの方々の作業を見てきたがあなたの方の作業が一番だった。誇らしい気持ちだったと語られた。ご来賓の岡村部長様、松尾課長様からも、二五年に亘るリサイクルセンターの運営に対する感謝と労い、新センターも引き続きよろしく願いますとのお言葉を頂戴した。

途中、アトラクションとして、センターの懐かしい写真を映像で流した他、ビンゴ大会も行われた。その後、吉浦理事長から、退職される方々に、一人ひとりに感謝の言葉を添えて花束の贈呈がなされた。終始笑顔に包まれた会は、終わりの時を迎え、紺野常任顧問からの感謝の言葉とともにお開きと



お疲れ様でした。ありがとうございました。(水野K)

当組合の理事三名が 退任されました

この度、本年三月三十一日を以つて、当組合の理事三名が退任されました。ここでは、退任された理事三名の方々の、当組合創設以来の長い年月に亘る功績を称えまして、それぞれの方の略歴をご紹介します。

◎副理事長・萩原貞雄



組合創設時の平成五年から、理事に就任し、同年十月に小平市中島町再資源化処理施設で開始された委託事業の総責任者を務められました。また、平成六年二月に小平市リサイクルセンターに委託事業が移行してからは、毎週木曜日の総責任者を平成二五年五月まで務められました。

一方、組合内部の役職としては、平成五年〜平成十四年まで専務理事、平成十四年〜平成三一年三月

なった。

新センターへと移動となり、新たな事業として小平センターは稼働した。今後も東多摩再資協は、市民の皆様の負託に応えリサイクル事業に邁進していく。退職された皆様、長い間本当に

まで副理事長を務められました。さらに各委員会では、平成五年（平成十九年）まで福利厚生委員長、平成十九年（平成三十一年）三月まで総務委員長を務められました。

◎理事・古山 忠



組合創設時の平成五年から、理事に就任し、平成六年二月に小平市リサイクルセンターへの委託事業が移行後、当リサイクルセンターで働いておられました。平成十一年四月に、小平市中島町再資源化処理施設で、組合が、トレイ・蛍光管・電池・牛乳パックの選別委託作業を受けてからは、当委託作業の総責任者を平成二五年八月まで務められました。なお、組合創立以来、平成三十一年三月まで当組合の理事を務められました。

◎理事・田中 彰



組合創設時の平成五年より、日

興紙業商事(株)の社員として、平成六年二月に委託事業を移行した小平市リサイクルセンターにて総責任者を平成三十一年三月まで務められました。平成二〇年に独立して田中商店を開設し、小平市リサイクルセンターの派遣作業員の大部分を統括されました。また、同時期に組合理事に就任し、平成三十一年三月まで、当組合の理事を務められ、平成二二年からは福利厚生委員長を務められました。

退任された三名の理事の方におかれましては、長い間当組合の事業に貢献して頂き、誠にありがとうございました。心より厚く御礼申し上げます。

小平市リサイクル

きゃらばんに参加して

去る二月一二日、小平市小川西グラウンドで行われた小平市リサイクルきゃらばんに参加させていただきました。大変好評をいただいている牛乳パック、小物雑貨類の対面回収を経験しました。当日会場に品物を持ってきていただきありがとうございました。

初めて参加し、たくさんの方々とお話させていただいている中で感じたことは、まだまだ3Rが浸透

していないということでした。自分が出した資源物やリユース可能なものが、どのようにリサイクルされているのか、よくわからないという言葉が印象に残りました。今回参加して、市民の皆様と触れ合えたことは凄く良い体験でした。これからも機会があれば参加していきたいと思えます。もっとリサイクルについてしっかり学び、情報を発信していきたいです。

(ケイシン 浦塚)

●春～夏のリサイクルイベント案内●

今年も下記の日程、場所で各市のリサイクルイベントが開催されます。組合ブースでは、小物雑貨類（おもちゃ、ぬいぐるみ、育児用品、かばん、靴、食器類）などの無料回収、リサイクル分別ゲーム、古紙の分別相談窓口を行っております。是非遊びに来てください。なお、詳細は各都市報、ホームページをご覧ください。

- ①小平市ごみゼロフリーマーケット
5月26日(日) 10時～14時 @小平市役所駐車場
- ②西東京市リサイクルフェスティバル
5月26日(日) 10時～15時 @いこいの森公園
- ③東大和市環境・市民の集い
6月2日(日) 10時～15時 @東大和市役所駐車場
- ④東久留米市環境フェスティバル
6月9日(日) 10時～16時 @東久留米市役所
- ⑤きよせの環境・川まつり
7月27日(土) 10時～15時 @台田運動公園



リサイクルきゃらばんの様子

小平市で家庭ごみの有料化と

戸別収集がスタート

去る四月一日より、小平市でも家庭ごみ(可燃ごみ、不燃ごみ、容器包装プラスチック)の有料化と戸別収集化がスタートした。

多摩地域三〇市町村では、二八番目(まだ有料化していないのは、武蔵村山市と桧原村のみ)の実施となった。

小平市では、収集の地区割もこれまでの東西二地区からA、Eの五地区割に変更になり、収集の曜日や回収も変更になった。びん・かんや古紙・古着類は毎週回収から隔週回収に変更になった。特に、古紙・古着は、『新聞・段ボール』と『雑誌・古着』のターンで入れ替わりとなっており、混乱している市民も多かったようだ。

市民にとっては分かりづらいかもしれないが、収集効率を上げ、コストの抑制のためご協力をお願いしたい。いずれにせよ、市民の皆様には、市が発行するごみカレンダーを確認してもらい、

① 指定の時間までに出す
② いつもと同じ場所に出す
③ 品目ごとに分別して出す

を徹底して頂きますよう、お願い申し上げます。

行事・行動

【平成三十一年一月】

四日：仕事始め

：各市役所への年始挨拶回り

九日：小平RC年始挨拶

十日：東京都中小企業団体中央会

新年賀詞交歓会

十一日：小平RC責任者会議

東資協理事会

十四日：定例理事会

十六日：東大和市廃棄物減量審議会

十七日：小平市「きやらばん」

：横須賀市資源回収協同組合

新年賀詞交歓会

十九日：日資連理事会・S委員会

二十一日：財務委員会

：業務委員会

二十五日：西東京市廃棄物減量審議会

二十六日：組合新年会

三〇日：東村山市業者連絡会議

【二月】

一日：小平RC責任者会議

二日：東資協新年賀詞交歓会

五日：官公需共同受注検査

六日：BCP策定講習会

八日：東資協理事会

九日：小平RC新年会

十二日：小平市「きやらばん」

：(公社)東リ協会陽春の集い

リサイクルフォーラム

十三日：東村山市廃棄物減量審議会

：定例理事会

十九日：西東京市集団回収団体意見

交換会

：業務委員会

：広報委員会

二六日：清瀬市環境川まつり実行

委員会

【三月】

一日：小平RC責任者会議

八日：日資連理事会

：日資連研修会

：東資協理事会

十三日：小平市廃棄物減量審議会

十四日：定例理事会

十六日：TAMAとことん討論会

十八日：財務委員会

：小平RC会議

二三日：小平RC説明会

二六日：GPS調査

：東大和市廃棄物減量審議会

二七日：東村山市業者連絡会議

二八日：財務委員会

三〇日：組員・組合職員感謝の会

【四月】

五日：業務委員会

八日：東資協理事会

九日：定例理事会

十一日：東資協東多摩支部会

十五日：広報委員会

：業務委員会

十九日：第一七回青年部総会

二二日：西東京市行政回収担当組

合員会議

二三日：BCP策定講習会

：東資協理事会

二四日：日資連理事会・広報委員会

二五日：小平RC責任者会議

編集後記

今回は、業界の若手の皆様にインタビューという形をとらせて頂きました。二人共、業界的には私の後輩ですので、最初は遠慮していたみたいですが、しっかりとしたビジョンを持つて仕事も青年部活動もされていることが分かりました。改めて彼らに任せて良かったと思いますし、業界の未来もまだまだ安泰かなと思えました。これからも私のようなうるさい先輩のことは気にしなくていいので、思いつきり頑張ってください。

さて、新年度が始まり、小平市の新リサイクルセンターの稼働、運営委託の開始、組合の運営組織の刷新など様々な動きがありました。理事も青年部も従業員も、一同新たな気持ちで業務に取り組みでまいる所存ですので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。余談ですが、今年度から別の会でも広報委員長を仰せつかることになり、東資協広報委員長と併せてトリプル広報委員長なうです。誰か委員長代わって：(TKO)